

# 新マルカブビル地鎮祭開く 株木グループの新たな拠点

設計・施工 街並みに合うデザイン  
株木建設

鎌入れする小林氏



鋤入れする株木氏



完成イメージ（株木建設提供）

株木建設など株木グループの丸株（東京都豊島区、株木康吉社長）は23日、東京都新宿区で建設するオフィスビル「（仮称）新マルカブビル」の地鎮祭を現地で開いた。株木社長や設計・施工を担当する株木建設の関係者らが出席し、工事の安全を祈願した。7月4

鋤入れする鈴木氏



日に着工し、2024年2月の完成を目指す。完成後は株木グループの新たな拠点となる予定だ。

神事では株木建設の小林信雄専務執行役員設計部長が鎌、株木社長が鋤、同社の鈴木勝利取締役兼常務執行役員東京本店長が鋤を盛り土に入れた。

神事の終了後、株木社長は「多年にわたり計画してきた新ビルの地鎮祭を行えたことに喜びを感じてい

る。近隣の皆さまのご助力と株木グループの尽力に感謝申し上げたい。新ビルは目白の文教地区の街並みに合い、歴史ある商店街とも共存できるデザインとなる。グループ一丸となり工事を安全安心に遂行していく」とあいさつした。

建設地は下落台3の501の1ほか。JR目白駅の西側で、目白通り（都道8号線）に面する。建築面積は526平方メートルで、建物はSRC造7階建て延べ2994平方メートルの規模となる。

中井勝作業所長（株木建設東京本店）の話



「安全と品質の確保を心掛け、近隣に配慮しながら

施工していく」。